

まちづくり市民会議（第1回・第2回）取りまとめ資料

《分野》

- 福祉・保健・医療（グループ1担当）……P. 2
- 生活環境（グループ3担当）……P. 5
- 教育・人権・文化（グループ1担当）……P. 8
- 都市基盤（グループ2担当）……P. 11
- 産業（グループ2担当）……P. 14
- 行政改革と市民参画（グループ3担当）…P. 19

●福祉・保健・医療（グループ1）

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
子育て	○子育て支援拠点が各中学校区にある ○子育てに関する講座が活発	・「私たちはこう子育てしてきた」といわれるのが辛い。いろんな子育てのあり方を認めることから始める。否定から入らない。 ・子どもが産まれてからではなく、子どもを産む前での“親育て”が必要	・安心して子供が産めるまちづくり ・若い世代に魅力的な計画づくり ・リタイア世代による子育て支援（ふれあい、短時間保育など） ・子育て支援を利用しようという気持ちを持ったときに、安心して相談・利用できる環境づくり（市民・行政が協力して）
	●子育て支援サービスを利用せず、外に出てこない保護者がいる ●新生児の親が不安を持っている ●子育てを楽しめない保護者がいる		・中高生の頃に子育てにふれる機会を設け、柔軟性や強さを備える（体験を通して夢を膨らませて欲しい） ・保健師による新生児訪問を今後ともきっちりと行い、専門家によるフォローが必要な親子を早期に把握する
	●地域と交流が持てない保護者がみられる		・周囲に溶け込めない子ども・保護者への対応
保育所	●保育所待機児童がいる		・待機児童の解消 ・乳幼児保育の充実 ・幼稚園との連携 ・保育ママ（昼間里親）、託児所、認可外保育所などの多様な手段を組みあわせて、子どもを預かれる枠を増やしていく
福祉全般	○福祉が充実 ○保健福祉医療全般にわたり様々な点で進んでいる ●「福祉」の意味の問い直し（高齢者の定義、障がいの区分ごとの対応） ●各個々の福祉サービスの再点検 ●障がい者や高齢者への情報発信が課題	・自治会に加入していないと福祉サービスなどについての情報が入ってきにくい ・自治会未加入者でもふらりと立ち寄れる場所があれば、それがきっかけとなり、自治会にも入ってくれるのではないかと（加入を強制するのではなく、自ら必要性を感じとってもらう） ・自治会を通じた見守り・支えあいが大切。体調が悪い人などには無理を言わず、みんなで見てあげるといった温かい気持ちが必要	
	●孤立している世帯（独居高齢者、認知症、母子・父子世帯）がある		・孤立化を防ぐための居場所づくり（例：コミュニティカフェ） ・谷間の人（自治会未加入世帯）の救済 ・自治会未加入者の行政による状況把握、見守りと適切な情報提供 ・三助（自助・公助・共助）の連携 ・「向こう三軒両隣り」を市の方針として掲げる（福祉に限らず、防犯、子どもの安全でも重要） ・自治会の加入促進（会費、活動内容などを説明の上） ・要配慮者（災害弱者）の実態把握調査が終わったことから、今後とは具体的な避難体制の確保が必要 ・ソフト面・ハード面でのバリアフリー化が必要

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
高齢者福祉	○介護保険施設や事業者が多い ○高齢者の趣味活動や社会参加が活発 ●介護サービスの実態把握が必要 ●敬老の集いのあり方 ●介護者の孤立化		・福祉地区のモデル地区づくり ・元気な高齢者の積極活用 ・介護予防・健康づくり
障がい者福祉	●障がい者が働く場が少ない		・障がい者の働く場の創出
セーフティネット	○総合生活支援センターのワンストップ窓口が便利 ○経済的に苦しい方への助成制度が充実 ●様々な助成制度の周知不足		・行政内での横の連携による効果的な事業実施 ・講座の運営等での民間事業者、NPO等の活用 ・総合生活支援センターのPRが必要（知られていない）
健康	○健康づくりに関わる講座が活発 ●検診や講座が保健センターで開催されるのでアクセスが良くない ●食育の取組がみられない	・保健センターに行くのが遠くて、不便な地域がある	・はっぴいバスの運行ルートに保健センターを追加
医療	○中核病院がある ○医療機関が多い ○小児科・歯科が多い ●眼科・耳鼻科が少ない ●産科の病院はあるが、枠があり、受け入れ態勢が不十分	・里帰り出産ができない	・市内で出産しやすい環境をつくる ・子育て中の母親が医療を受けやすい環境づくり（事例：向日市に託児サービス付きの歯科がある）

【今後重要となる取り組みとして挙げたもの】

◎「向こう三軒両隣り」による見守り・支えあいを、まちづくりの方針として掲げる

- －高齢化が進むなかで、近隣での見守り・支えあいが必要である。その中核にあるのが自治会活動である。
- －自治会への加入は任意であるが、自治会の果たす役割をきちんと説明し、加入を勧めていく。
- －自治会未加入者が孤立しないように、気軽に立ち寄れる場（例：コミュニティカフェ）を設けるなど、地域の福祉の輪に入るきっかけをつくる。
- －一方、全てを自治会任せにするのではなく、行政としても最低限の状況把握・情報提供は適切に行う。

◎中高生の頃から新生児や小さな子どもにふれあう機会を増やし、“親育て”を行う

- －昔に比べると、自分が親になるまでに新生児や小さな子どもと接する機会が大幅に減っている。
- －その経験を補う取り組みを通じて、柔軟性や強さを備えた“親”を育てていく。

◎充実している福祉・保健・医療についての情報提供とアクセス利便性を向上する

- －福祉・保健・医療に関わる主要なサービスや施設は、比較的充実している。
- －市民が必要なときに必要なサービスが利用できるようにわかりやすい情報提供や、交通アクセスの利便性の向上などに取り組む必要がある。

◎不足しているサービスや、新たな課題への対応について、情報を共有し、関係者の連携により適切に対応していく

- －待機児童の解消にあたっては、新たな保育所整備だけにこだわらず、保育ママ（昼間里親）、託児所、認可外保育所など多様な手段を組み合わせて検討し、子どもを預かる枠を増やしていく必要がある。
- －要配慮者（災害弱者）の実態調査完了を受けて、地域で協力して、個人情報の保護に留意しつつ、具体的な避難体制を構築していく必要がある。
- －子育て中の母親が医療を受けやすい環境を整えるため、医師会と子育て支援団体等との連携を進めていく必要がある。（例：託児サービスが受けられる歯科）

●生活環境（グループ3）

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
環境保全	○環境都市宣言を行ったこと		
	○住民の環境活動が盛ん ●住民の環境活動について、まわりの理解を得られていないことがある ○市民環境フォーラムでの多団体の協働 ●地域の環境保護に関心をもつ市民は少数	・環境活動に関心のない人は、環境活動への取組みを他人事のように考えている ・市民活動サポートセンターでの情報交換は、よく機能している ・自治会活動が、財産区を中心として行われており、集合住宅の住民が参加できていない	・温暖化防止を全市民的課題として考えてもらう方法の検討 ・環境保全活動の参加・協力者を増やす ・住民の環境活動がスムーズに行える仕組みづくり ・関心のない人にも関心を持ってもらえるようにする ・市民団体の活躍を住民に浸透。子ども・高齢者が自然保護に携わる機会づくり(子どもが自分の遊び場の美化に取り組む機会を作ることで、関心が持てるようになる) ・市民の環境保全意識の向上 ・環境活動に取り組むグループづくりをすすめる ・自治会を環境活動の受け皿に活用する ・自治会に入らない集合住宅と行政の接点を確保する ・行政からの情報発信を充実させる
	○庁内で「環境マネジメントマニュアル」実践		・職員の環境への取組の広報
環境美化	○市民の環境美化の意識が高い(喜旦) ●一部に環境美化意識の低い市民(喜旦) ●見苦しい・汚い所への対策が未対応(喜旦)		・環境美化のボランティア組織づくり ・ボランティア組織づくりに自治会を活用 ・集合住宅の住民をボランティア組織に取り込む
ごみ・リサイクル	○資源ごみ回収団体への報奨金交付 ●乙訓地域全体でのリサイクルができていない ○ごみ収集時間が守られている ○分別収集はよくできている ●分別などのごみ処理ルールが完全には守られていない ●集合住宅管理者への行政の協力が得られない	・報奨金の交付はリサイクルに効果がある ・ごみ減量の取り組みが必要 ・京都市では収集の有料化でごみが減少している ・収集時間が一定であると、ごみを出す側の意識も向上する ・賃貸住宅入居者にごみ処理のルールが守れない人がいる ・外から車で来てごみを捨てる人がいる ・集合住宅に新たに入居する人にごみのしおりを配布して啓発したいが、行政からの協力が得られなかった	・リサイクルに出すという視点からごみを出さない意識への切り替え ・生活ごみ収集有料化の検討(市内で買い物をした人にポイント制でごみ袋を配布すれば、ごみの減量だけでなく商店街の活性化にもつながる) ・転入者のごみ処理ルールの徹底 ・自治会の利点を教え自治会を作る ・ごみで近所に迷惑をかけている家への市の指導 ・各家庭で乾燥機を購入し生ごみから肥料を作る

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
自然環境	○自然がたくさん残されている ○美しい山・川など緑が多い ○自然環境がよいと感じている市民が多い ○自然環境の保全は概ね良好 ●以前に比べ自然が失われつつある ●小畑川の河川敷を私物化している人がいる	・開発と自然の保全のバランスが重要 ・自然環境や景観の保全への取り組みが、一部の市民にしか知られていない ・行政は開発に当たっても様々な配慮をしているが、こうした努力が市民に十分に知られていない	・自然とまちづくりの共存 ・長岡京市全体として景観を守る取り組みが必要
緑化・西山保全	○西山の整備に取り組んでいる ○西山森林整備推進協議会等の活動 ○森林ボランティア行事などの活用 ○緑を守り育てる取り組みが官・民で積極的 ●竹林の荒廃や侵食が進んでいる ●竹林の未整備で見苦しい所がある ●西山で焼却の煙があがるのはふさわしくない ○住宅街の緑や街路樹の存在	・緑を守り育てる取り組みは、企業や大学、子どもたちなどに、幅広く取り組まれるようになった ・竹林の整備は進んできているが、未整備のところも残されている	・西山保全の継続的实施 ・緑化と商店会の取り組み（みどりのサポーター制度による協力、緑化を目的とした行政から商店会への支援の検討） ・「新しい公共」による成果を広げる仕組み ・緑を守り育てる取り組みへの参加者が限定されているので、さらに広げる取り組みが必要
水環境・水道	○安定した水の供給体制 ○府営水導入による安定的な水確保 ○安全な良質の水の確保はまずまず ○下水道使用料もまずまず ●水道料金が高い ●府営水導入後の大幅な料金値上げ ●水道事業の実情が市民に適確に伝わっていない（市民アンケートの公表の方法に問題あり） ○小泉川、小畑川がある ●小畑川が汚い	・水道への市民の関心が高い ・府営水導入の目的は何か。非常時のためであれば、非常時の給水が可能な設備となっているのかよく分からない ・府営水導入で料金が上がったが、水道使用量の見込み違いなのか、そうではないのであれば、実情を明らかにすべき ・企業の水の使用量は、景気に左右される面がある ・市長が水についてのビジョンを明確にして、京都府との交渉に当たるべき ・議論の中身が市民に見えない。情報発信の方法に工夫が必要 ・市民アンケートの公表の方法に問題がある。確かに満足度は高いが、不満を持っている人も多いのに、それが伝わらない ・一般会計から下水道事業への繰入が多額に上っている	・水道事業の2市1町統合によるメリット・デメリットの検証 ・地下水を極力多く市民の口に ・水道について正確でわかりやすい情報提供（水の質は、地下水が良いとは一概には言えないが、イメージで地下水を好む傾向があるので、水の質について情報提供を行う） ・貯水槽の衛生管理の状況把握と徹底（行政のチェックが甘い）

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
公園	○公園が多い ○西山公園は子どもの遊び場として最高 ●街中に広い公園が少ない		
その他	●宣言や計画と、実施計画や予算がリンクしていない ●マイナス情報を含めた可視化や情報公開ができていない	・環境はすべての分野に関わる問題であり、庁内の全部署が取り組むべきテーマ ・将来の人口減少を踏まえた計画づくりが必要	・まちづくりなどに長期的視野と住民の目線を取り入れる ・財産区窓口には限界あり。集合住宅への対応と活用を検討

【今後重要となる取り組みとして挙げたもの】

◎環境活動や緑化活動への市民参加を促進すること

- ー環境活動や緑化活動への市民参加は進んできているが、一部の人の取り組みにとどまっている。関心のない人にも関心を持ってもらえるような活動を行う必要がある。
- ー環境活動や緑化活動の受け皿を整備する必要がある。自治会を活用するほか、集合住宅入居者と行政との接点をつくる必要がある。

◎水道事業に関する議論を市民に分かりやすく伝えること

- ー水道は市民の関心が高い分野であり、市長の水についてのビジョンを明確にし、府営水道に関する京都府との交渉に当たる。
- ー水道事業に関する議論が市民に伝わっていない。情報発信の方法を工夫し、市民に分かりやすく伝える。

◎ごみの減量やごみ処理ルールの徹底を図ること

- ーごみ減量の取り組みが必要である。ごみ収集の有料化で効果があった例もある。有料化にあわせて、市内で買い物をした人にポイント制でゴミ袋を配布すれば、ごみの減量だけでなく商店街の活性化にもつながる。
- ーごみ処理ルールを守れないのは一部の人である。転入者や賃貸住宅入居者へのごみ処理ルールの徹底をはかるほか、住宅管理者への行政の協力なども必要である。

●教育・人権・文化（グループ1）

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
全般	●この分野への関心が低い ●学校教育以外への関心が薄い		
学校教育	○学校選択制の導入 ○教員資質・指導力が向上 ○地域と学校との連携 ●学校数が多い ●教師は政治的中立を		・教育内容の充実 ・教師が学業に専念する時間の確保 ・学校と地域との連携 ・学校の統廃合 ・各学校における学習障がいのある子どもの受け入れ体制の強化
	●希望・意欲をこどもたちがみせない ●子どもたちの社会性が低下している ー授業中に席につかない児童・生徒がみられる ー職場体験の時に先生がピリピリしているが空回り(注意を聞き流している)	・社会環境の変化などにより、子どもたちが夢や希望をもてない・もちにくい時代なのではないか ・各家庭の子どもの数が少ない、共働きで普段忙しいなどの家庭環境の変化や、個性尊重・干渉せずなどの社会風潮により、子どもが甘やかされて育っている	・周囲の大人一人ひとりが子どもたちとの関わり方を変えていく(子どもたち・保護者のことを嘆くのではなく、自分が変わる) ー現代の子どもたちが興味・関心をもつポイントを押さえる ー時にはきちんと叱る ー「子どものため」ということが子どもに伝わると、子どもは助言を受け入れる。（“できない子”であっても環境を整えば“できる子”に変わる）
	●学習障がいを保護者や周囲が過度に重く受け止めるのはよくないのではないか	・学習障がいについて理解不足(教員、保護者、地域)	・学習障がいのある子どもを過度に特別扱いせずに受け止める ・各学校に学習障がいのある子どもが学びやすい環境を整備する
家庭教育	●しつけは家で教えるもの ●家庭教育の衰退 ●身勝手な保護者が多い ●子どもをペットにする保護者 ●教師が保護者に気を使いすぎ	・子どもの愛し方を知らないので、管理だけをしている保護者がいる。中には、管理もしていない保護者も見受けられる ・子育てに自信を持てないので保護者がマニュアル頼りになる ・“注意(諭す)”と“怒り”とを使い分けできない保護者がいる ・親自身が成長する機会がない	・子どもや保護者が、様々な大人と関わる機会を増やす
モラル・マナー	●マナー・ルールが守られない ●自分中心の人の増加 ●周囲との助け合いができない人の増加		
いじめ・暴力	●いじめ・暴力の実態は？ ●子どもの暴力行為		・心の教育、不登校への対応

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
教育環境	○教育環境の充実 ○学校の耐震化が進む ○学校にエアコン設置 ●学校のトイレに課題（特に低学年用がくさい）	・ 上の方の階のトイレから改修されているようである	・ トイレの実態把握と専門家を交えた解決策の検討・実施
社会参加	○定年後・子育て後の地域貢献意欲が高い ○市を愛する若者多い ※20代後半 ○市民活動の場が多い	・ 元気でパワーのある市民が多い ・ 活動に参加すると元気になれるので、再び参加する	・ 若者が興味を持つ取組 ・ 学校教育・社会教育での社会人講師・市民ボランティア・企業等の積極的活用
文化	○公民館での啓発活動 ●公民館を利用しない人もいる	・ 高齢者は公民館まで出かけにくい ・ 共働き世帯などは、休日は家族で過ごすことが多い	・ 公民館の出張講座（各町内へ出向く）
	○公民館に関するPRは良くなった ●公民館に関する情報提供でもう一工夫が必要	・ 駅へのチラシ設置、掲示板などで情報入手しやすくなった ・ 公民館の情報を知らない人がいる ・ 情報が整理されて発信されていないので選びにくい ・ 公民館の参加者が偏っている	・ 市役所でのチラシ配布などの工夫
	○文化活動が活発 ●公共施設開放状況の周知不足 ●図書館の利用マナーがよくない人がいる		
スポーツ			・ 地域スポーツの振興 ・ 市政におけるスポーツの位置づけを高めてはどうか
	○乙高のスポーツ科新設 ○乙高の体育施設開放 ○色々なスポーツ施設があり、恵まれている ●低料金で利用できる公立のプールがないので、夏の暑い日に幼児をプールに連れて行きにくい		・ 関係者の理解、運営体制の確保、衛生的な利用を前提として、学校のプールを児童・生徒以外にも開放できないか（現在は、PTA の運営による5～6日の開放のため、別の体制確保が必要）
	●スポーツが好きであっても初心者はイベントに参加しにくい	・ 初心者には敷居が高く感じられるイベントがある ・ イベントを企画する人の想いと、参加者の想いの間に“ずれ”が生じているものもあるのではないか ・ スポーツは種類が多く、関心をもつ種目に好みがある	・ 初心者が気兼ねなく参加できる間口の広いイベントの開催 ・ 障がい者がスポーツを楽しめる機会づくりを ・ 情報発信を工夫し、好みの種目のイベント等を選びやすくすることが必要
	●社会教育団体の担い手不足	・ スポーツが好きな人は多いが、役をしたくない人が多い	
	●地域と関わりをもてない人がいる	・ 昔からの自治会活動には参加しにくい	・ 町内会でのおつきあいやイベントを増やす（町会費を還元する）→後継者の確保にもつながるのではないか
文化財	○ふれあい町家 ●文化・歴史・人的資質をまちづくりにいかせていない ○歴史のあるまち		・ 文化財の保存とPR

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
人権	○人権啓発活動が活発 ○男女共同参画に関する推進条例の制定 ●人権についてのユニバーサルデザイン(機会均等社会づくり)を		・障がい者に関わる人権意識の高揚
子どもの健全育成	●悩んでいる保護者が多い		・留守家庭児童会の役割充実
子どもの安全	●学童パトロール		・下校時の児童の見守り

【今後重要となる取り組みとして挙げたもの】

◎子どもや保護者を取り巻く地域社会（大人たち）が、子どもや保護者・学校との関わり方を変えていく

- ー子どもたちや保護者が、様々な大人と関わる機会を増やしていくことがよい。子どものみならず、保護者にも“育つ機会”が必要となっている。
- ー地域と学校の連携を深め、地域が学校を側面的に支援できる仕組みや取り組みが重要。
- ー学習障がいについての教員・保護者・地域の理解を深め、過度に重く受け止めるのではなく、学校で学べる環境を整えていくことが必要である。

◎リタイア層や若い世代の人たちに地域社会でもっと活躍してもらう

- ー長岡京市を愛する市民が多い。色々な市民が活躍できる出番を増やしていく。

◎利用者の視点から、文化・スポーツに親しめる機会や情報提供を充実する

- ー様々な情報が発信されるようになったが、利用者の視点にたってもう少し整理して発信されるとわかりよい。
- ー初心者にとって敷居が高い企画がみられる。利用者の視点に立ったイベント・講座の企画がされるとよい。（企画する立場の人はレベルの高いことを求めがちでは）
- ー高齢化が進むことから、公民館へ出向かずとも、身近な町内での出前講座などが受けられるとよい。

◎今ある学校や文化・スポーツ施設をもっと有効に活用する

- ー財政状況が厳しいので、新たに施設建設などのためにお金を使うことはせずに、今あるものを使うなどのやりくりや工夫をしていくことが大事である。
- ー例えば、本市には公立のプールがないので、関係者の理解、運営体制の確保、衛生的な利用を前提として、学校のプールを児童・生徒以外にも開放できるとよい。

●都市基盤（グループ2）

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
全般	○基盤整備を着実に推進	・ これまでは財政状況もよく、基盤整備ができていたが、財政状況の悪化などを踏まえて、今後のことを考える必要がある	・ 心豊かな生活に寄与する街づくり
交通利便性	○近郊都市とのアクセスがよい ○JRの快速、阪急の特急が停車 ○大山崎JCが近い ○国道 171 号が市内を貫通 ○阪急の新駅ができる ●東西ルートの道路整備が遅れている。(国道 171 号の市中心部へのルートなど)		
	○コミュニティバスの運行 ●コミュニティバスが休日運休 ●コミュニティバスの存在が知られていない ●コミュニティバス路線の民間バスとのすみわけが不明確	・ 平日のみの運行のため、使う機会のない人が多い。休日にも運行されれば使う機会が増える ・ バスが走っていても、どこかの送迎バスだと思っている人もいる。存在が知られていないので利用が少ない	・ コミュニティバスの休日運行 ・ コミュニティバスのPRの強化
中心市街地整備	●長岡天神駅周辺整備の遅れ ●長岡天神駅周辺の整備計画が不透明 ●長岡天神駅前にロータリーがない	・ 車での送迎がしにくいので、お客さんを招くことができない ・ 駅の近くにも空き地や田んぼがある。効率的な利用ができないか ・ 新駅の整備が進められているが、特急停車駅でない駅に中心を動かすのは難しい	・ 新駅より長岡天神駅周辺を優先開発 ・ 駅前整備に関する市の対策・調査結果の公表 ・ 中心部の計画的開発 ・ 交通体系全体を考慮した道路整備 ・ これまでどおり、阪急長岡天神、JR 長岡京を中心としたまちづくりを進めればよいのではないかと。
	●長岡天神駅周辺の道路の一方通行化の計画があるものの、進行していない	・ 土地区画整理は簡単ではない ・ 計画を公表して事業を進めたほうが、市民としても協力できる ・ 長岡天神駅を高架化しなくても、駅前の道路の一方通行化などで対応できるのではないかと	・ 計画を公表して、市民とともに進める。情報がどこにあるかがわかりにくいとため、ホームページならトップページに配置するなど、公表の方法にも工夫が必要 ・ 交通バリアフリーの観点からの長岡天神駅周辺の道路の一方通行化を早急に進める
	●外から人が来にくいまちになっている		・ 市内の周遊ができるようにする ・ 長岡京市はベッドタウンであるだけでなく、企業も多いので、企業の人、市内での購入を進められないか ・ 住んでいる人や仕事に来ている人に楽しんでもらえるようなまちにすることが大切

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
生活道路整備	●歩行者の安全確保が不十分 ●道路・歩道の幅が狭い ●歩道の傾きが大きい ●道路整備が中途半端	・起伏のある地形である ・通学路などの安全確保ができていない ・自転車の安全確保ができていない ・整備計画はあるが進んでいない ・JR 長岡京から長岡天満宮への道が途中から狭くなっている	・歩道の道幅や傾斜等の調査 ・生活道路での自動車の通行制限 ・安全な生活道路の整備 ・阪急沿いの道路整備 ・JR 前の道路整備 ・小畑川沿いの歩道の有効活用
交通渋滞	○アゼリア通り踏切の拡幅 ●中心市街地の踏切付近の渋滞 ●天神通り踏切付近の渋滞		・交通渋滞緩和対策の公表 ・地域内交通・通過交通の分離 ・観光シーズンのパークアンドライド実施
	●鉄道が高架化されていない	・道路整備が進んで、長岡天神駅付近の交通量は減ってきている	・鉄道の高架化
秩序あるまちづくり	●無秩序な宅地開発		・無秩序な開発・計画防止 ・乱開発を防ぎ、景観づくりを進めるため、市民の意見を聞いたうえで、市が方向性を示してまちづくりを進める ・都市基盤の整備に当たっては、優先順位をつけて、できることからではなく必要なところから整備を進める
まちの景観	○市街地から西山を望むことができる ●道路建設により眺望が妨げられる恐れ ●街の美観	・にそと(京都第二外環状道路)の建設により、西山の眺望が妨げられる恐れがある ・まち全体として特徴のある景観・美観が無い ・	・特色ある美観づくり ・無電柱化の促進 ・まち全体で景観づくりを進める
防犯・防災	●自主防災意識啓発が不十分 ○自然災害が少ない ●地震発生後、周辺都市名が発表される中に当市の名が出ないことが多い ●夜道が暗い(特に山手)	・市民の地震への意識が高くない	・自主防災意識の啓発
その他	○市民が誇りを持てるまち ○住宅地が静か ●地価が高い		

【今後重要となる取り組みとして挙げたもの】

◎まちづくりを進める際に、方向性を示すこと

無秩序な宅地開発が行われていると感じている。乱開発を防ぎ、景観づくりを進めるため、市民の意見を聞いたうえで、市が大きな方向性を示してまちづくりを進めるべきではないか。

◎まちづくりの計画や関連する調査結果等を公表すること

－事業を進めるときには、計画や関連する調査の結果等を公表して進めれば、市民として協力できる部分がないか、検討することが可能になる。

－既に公表している部分もあるが、情報がどこにあるかがわかりにくいため、市民が情報を見つけやすいように、公表のしかたを工夫することも必要。

◎長岡天神駅周辺道路の一方通行化の早期実現

交通バリアフリーの観点から、長岡天神駅周辺の道路の一方通行化を早急に進める必要がある。

●産業（グループ2）

テ ー マ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
全 般	○イメージ(長岡京という名称) ○JRの駅名を神足から長岡京に改名したことで、他地域の人にもわかりやすくなった。 ●良いイメージがある一方、名前負けしている感がある	・「京」という文字はインパクトが大きく、良いイメージを持たれている ・他地域の人には、「神足」ではピンとこなかったようだが、「長岡京」にすることでわかりやすくなったと思う	・文化や歴史を活用した産業振興(例:大学等との連携)
	●全体としての方向性・戦略が見えない ●議会は産業に興味がないように思える	・グローバルな視点に立って方向性を打ち出すことが必要だが、ピンポイントな振興策(融資など)しか耳に入ってこない ・立地が良いのに産業集積がないのは、市が無策だからではないか ・大規模展開をするには土地が足りず、研究開発拠点を誘致するには地価が高い	・企業の流出防止策の検討 ・都市基盤整備と併せて人・モノ・金を誘致すること ・住環境とのバランスを考えた産業活性化策
	○企業(優良企業)の立地 ○半導体、電子部品の世界的研究開発拠点がある		・まちのイメージの「みどり」と「歴史」に「最先端」を追加
	○立地条件(特に交通基盤)がよい ○にそとの完成で関西の中心となれる(全方位1時間) ○交通関連の立地条件を活かした東部地域への中小企業の誘致促進 ○大手工場の立地による人口流入 ●産学の「学」がない ●良い点が知られていない	・道州制が導入されれば、関西州の地理的な中心になれる ・近年の昼間人口増は工場勤務者で、食事など全てが工場内で済むため、街中にはお金が落ちない ・オフィスを誘致すれば、街中にお金が落ち、経済効果が期待できる ・製造業を誘致すると、住環境に影響が出る	・交通の便を活かした物流企業の誘致 ・「全方位1時間」を活かした関西外企業の営業拠点(オフィス)の誘致

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
観光	○観光資源や特産品がある ○産業観光(工場見学)も成り立つ ○多彩な観光イベント ○近郊からのハイキングコースがある ○住宅地のすぐ横で蚩狩りができる ●観光振興への取組が不十分 ●観光資源のブランド不足 ●観光の特色のPR不足	・半導体や電子部品の世界的企業の工場が集積しているほか、ビール工場もある ・戦略プランはあるが、戦略ではなく「対策」になっている ・ブームではなく、持続的な取り組みを検討する必要がある ・タケノコは、近隣では知られているが、全国的なブランドとしては認知不足	・イベント・各物産展等への積極的な対応 ・産業観光についての企業へのはたらきかけ
	●観光地はシーズンが異なるため、観光をまちづくりのメインの1つにするのはよくない)	・1か所だけを観光するためにわざわざ長岡京を訪れる人はいない	・市内観光のルートを設定し、提案すること
	●観光地を結ぶ遊歩道等、観光地が未整備 ●観光シーズンの民間バスに臨時便が出ているが、行き先の表示がない ●乙訓寺への道案内が統一されていない(同じ地点にある市の石柱は 0.5km、府の標識は 0.4km となっている)	・京都市内は観光客が多いが、その人たちは長岡京には流れてこない ・東西の交通が未整備であるため、移動がしにくい(特に高齢者)。また、広域連携も進まない ・高齢者は資産を多く保有しているため、高齢者の資産を市内に落としてもらうような仕掛けが必要	・通過型から滞在型観光への転換策 ・観光バスで来る人が食事や買い物をする場所(道の駅等)や、市内滞在時間が長くなるような場所(温泉等)など、「お金が落ちる場所」をつくること ・お年寄りなどが気楽に散策できる歩道を早急に完成させる ・バリアフリー化や休憩所、トイレ等の整備をすすめ、高齢者が観光しやすいまちにすること
	●住民の観光地としての意識が低い	・観光客を誘致することによる経済効果よりも、渋滞など生活環境への影響のほうが大きいと感じられているのではないかと ・住宅地との共存を図れないか	・1つの歴史を共有する地域である乙訓2市1町での観光地整備への取り組み

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
商業	●商業の衰退と活性化への取り組み不足	・ 10 分で四条烏丸に行ける利便性の高さが裏目に出ている ・ なぜ伏見大手筋商店街のようにできないのか？ ・ 大手筋は歴史が長く、人や商店の出入りも少ないため、長岡京とは背景が違う	・ 長岡京市にふさわしい商業活性化策
	○スーパーが多く、購入先を選択できる ●地域商店街の活性化が図れていない ●商店街の賑わいが乏しく、空き店舗が目立つ ●商業者の自助努力が足りない(負けないものがあれば、客は逃げない)	・ 各商店がバラバラで取り組みを行っても、スーパーに太刀打ちできない ・ 商業者に消費者ニーズをくむという意識がない(消費者は、安いものはスーパー、高い者は百貨店で買うようになっている) ・ 次世代に事業継承されずに廃業してしまい、その場所が住宅になることも多い ・ 向日市の商店街は、空き店舗を活用して活性化を図っている	・ 各商店街共同でのイベント実施 ・ 各商店と大型物販店との共存の模索 ・ 商店街活性化のための構想 ・ 商店を集積させ、レンタサイクルや土産物店なども加えて、観光地への接続を図ること ・ 商業者が消費者ニーズに対応する方法を検討すること ・ 向日市の『京都激辛商店街』のような、アイデア、発想、企画力 ・ 経営者の自助努力促進政策
	○市内共通の商品券(1万円で1万1千円分)があった	・ 市内でしか使えないので、市内の購買力が上がる	
	●商習慣・金融システム・生活習慣の変化にもかかわらず、従来の商店街をイメージしてまちづくりを検討すること		・ 商業を発展させたいのか、ベッドタウンとして長岡京を創るのか、両方求めているのか、という点で、市政の考えを知りたい。

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
農業	○柔らかくておいしいタケノコの産地である ●農地が有効活用されていない(一毛作が目立つ) ●市街地にも存在する遊休農地	・タケノコの収穫は高齢者には大変な作業 ・高齢化が原因なのか、一毛作でも十分食べていけるからなのかの実態把握が必要	・若い担い手の参入促進 ・一毛作の実態点検
	●農産物のブランド化が進まない ●規模拡大への方向性が見えない	・ブランド化の仕掛け人がいない ・まとまった規模での販路拡大や加工品製造を行うには、生産量が十分ではない ・行政や生産者の意識がそれほど高くない	・農業生産組織の法人化 ・認定農業者の参入誘導 ・農業者が共同で農産物を販売する仕組みづくり(直売所、スーパー内出店等) ・外部からの担い手の募集
	●地産地消ネットワークが確立されていない	・一部の学校給食では地元の農産物を取り入れているが、生産量が少ないため、安定した供給をもって、地産地消で全てがまかなえる状態ではない	・食育をテーマとした地産地消 ・スローフードへの回帰政策
特産品活	○歴史があり、「おとくに」「長岡京」ブランドを活かすことができる ●特産物などの PR 不足	・知名度やブランドイメージがあり、名称として使いやすい ・歴史やストーリーはあるのに、PR をしていない、また、PR の目的が不明確	・特産品の加工品等の開発 ・竹林整備や竹を使ったイベントなどの支援 ・産業と観光をリンクさせた全国的な売り出し
(都市基盤)	●メリハリのない都市計画(特に土地利用規制) ○良い時期に JR 西側の工場跡地を購入できたこと ●阪急駅や阪急駅周辺の土地が有効に利用されていない ●利用度の低い JR－長岡天満宮間の道路工事の継続 ●自転車の人が安心して走れない車道	・点検することにより、スムーズに進まない理由が見える	・第一次総合計画の点検・結果公表 ・JR 駅前開発の成果考察と結果公表 ・阪急長岡天神駅周辺の公示地価・不動産価格・不動産税の点検と近郊他市との比較 ・自転車が走れるように車道を補修する
(雇用)	●働く所はあるが、簡単に働ける環境になく、人の持ち腐れになっている	・保育園が不足していて、共働きができないので、世帯の所得が増加せず、そのために消費も拡大しない	・各産業における雇用創出策

【今後重要となる取り組みとして挙げたもの】

◎「長岡京」のイメージと交通利便性を活かし、住環境とのバランスに配慮した企業誘致を行うこと

- －「長岡京」という名前が良いイメージを持たれているほか、道路や鉄道などの交通網が発達しており、「にそと」が完成すれば関西各方面へ1時間程度でアクセスできる「関西の中心」になることから、それらを活かした企業誘致（物流企業等）を行うことが必要。
- －工場の誘致は住環境に影響を与える可能性があるため、企業の営業拠点（オフィス）を誘致すれば、住環境とのバランスが保たれると同時に、昼間人口のさらなる増加による経済効果を見込むことができる。

◎市内の資源を活用し、観光客が市内に滞在する仕掛けをつくること

- －半導体や電子部品の工場、ビール工場などを活用した「産業観光」（工場見学）を進めるため、企業にはたらきかけを行うほか、これらを含めた市内の観光地をルート化し、長岡京を訪れようとする人たちに提案してはどうか。
- －観光バスで訪れる人が食事や買い物をする場所や、温泉のように市内での滞在時間が長くなるような場所など、「お金が落ちる場所」をつくることが必要。
- －観光地のバリアフリー化や、休憩所・トイレ等の整備を進め、高齢者がゆっくり観光し、同時に消費もしてもらえるようなまちにすることが必要。

◎消費者ニーズを踏まえた事業者の自助努力による商業活性化に対して支援を行うこと

- －事業者自身が消費者のニーズを把握して事業展開し、空き店舗を活用した商店街活性化方策を検討するなど、事業者の自助努力による商業活性化を促すような支援を行うことが必要。

◎担い手の確保や農産物の共同販売の仕組みづくりによる農業活性化

- －高齢者には大変な農作業の担い手や、農産物のブランド化を進める人材など、農業の担い手不足を解消するためには、市内に限らず市外からも、（若い）担い手を募ることが必要。また、農業生産組織の法人化や認定農業者の参入誘導などを図ることも考えられる。
- －農業者が農産物を共同で販売する仕組みを確立し、「つくったものが売れる場所」（直売所やスーパー内への出店）を確保することで、市内での農業生産を維持することができ、地産地消も進むのではないかと。

●行政改革と市民参画（グループ3）

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
市民参加	○多くの市民が市民参画に関心を持っている ●市民参画への関心が低い市民が多い ●現役の人（退職する前の人）の参加が少ない（時間にゆとりのある人だけ、参加している） ●参加者の固定化	・まちづくりに関連する提案が多く集まった（提案しているのは一部の市民のみではないか） ・広報で募集してもなかなか参加者が集まらない（市民の大半は無関心ではないか）	・シンポジウムの開催 ・退職した市民だけではなく、現役の市民が参加できる仕組みづくり（参加方法など）が必要である ・市民生活に最も身近な水の問題について考える必要がある
	○ホームページや政策資料は充実している ●参加する機会はあったが、参加する人が少ない ●市民参画に対する行政の取り組みが十分でない ●市民参画・協働の具体的な施策が不十分	・参加の機会は設けられていても、実際に市民が参加できる十分な環境が整っていない（例：傍聴席が確保されていないなど） ・行政の考え方と市民の考え方にずれがあるのではないか ・意見を言っても実際の行政活動に反映されないのではないかと感じる人が多い	・行政が説明責任を果たし、市民と共に考える場が必要 ・参加したいときには、いつでも市民が参加できる環境（受け皿）整備が必要 ・内容が重複する会議が多いため、整理が必要ではないか ・計画の評価に市民が関わる仕組みづくりが必要 ・行政の具体的行動（何をどう変えるかを示す必要がある）
	●地域の人材・財産の活用が不十分 ●市民活動への行政の対応力不足		・ボランティアをうまく活用する ・市民と行政の双方にメリットのある参加の取り組みが必要 ・市民団体活動状況の把握 ・市民が参加しやすいシステムづくり（地域通貨の導入など）
	○「新しい公共」概念の成果（「緑のサポーター制度」など） ●「新しい公共」が全庁的活動になっていない	・「緑のサポーター制度」では、市民の力をうまく活用する仕組みができているが、他の分野ではこうした活動が広がっていない	・市民参画のノウハウを広い分野で共有（庁内で連携）し、成功事例を広げていく ・公共と市民の役割の明確化
	●市民の声を聞く機会の不足 ●市民アンケートの内容と方法	・アンケートの中で、市政全体の支持に関する質問がない ・ワークショップ等で出された意見が施策に反映されているかどうか分からない	・積極的な意見収集（納税通知書を送付する際に、市政に対して意見を述べ投函してもらった葉書を同封するなど） ・住民アンケートの定期的実施 ・市政支持率調査の実施 ・住民の声をつかむ仕組みづくりが必要 ・市民参画によって出された意見の施策への反映

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
行政運営	●縦割りの考えで横の連携が不足している ●経営意識が不足している ●計画が多すぎる ●透明性・公平性に疑問	・それぞれの計画の関係が明確になっていない ・計画を作っても、実行や評価が十分でない面がある ・何でも行政に頼るという姿勢は良くない	・市の独自性の発揮が求められる ・今後必要と考えられる部分に対しては、予算を重点的に配分すべきではないか(選択と集中が重要) ・計画したら決断、実行すべき ・計画の実行と評価が重要 ・議会、市民、事業者それぞれの役割分担を明確化し、それぞれが責任を果たすことが重要
行財政改革	○京都府下で初めて、そして国に先んじての事業仕分けの実施 ○事業仕分けにより、行政職員の仕事の仕方が変わる	・長岡京市では、国よりも先に事業仕分けに取り組んだが、一般市民はそれを知らない人が多い ・事業仕分けは行政に関する市民の関心を高める良いイベント ・事業仕分けには市民の目線が必要 ・これまで行われていた事業チェックの仕組みと、事業仕分けをどう連携させるのが重要 ・事務作業がルーティンワーク化してしまっはいけない ・事業仕分けは職員が危機感をもって仕事をするきっかけになる(危機感が欠けている職員が多いのではないか)	・事業仕分けの充実 ・一般市民、専門家、職員で事業仕分けを実施 ・市民参加が事業仕分けを成功させる鍵である ・透明性のある事業仕分けを行うことが必要 ・事業仕分け結果の予算への反映状況の開示 ・市長が主導して仕分けを行うことが求められる ・職員も住民にも、危機感を持って取り組むことが求められる
	●税収の落ち込みが事業実施に影響		・歳入の見直し ・更なるムダの排除 ・市バス・市立病院・葬祭場がない利点の把握 ・市長、議長等の公用車のカット
	○無駄のない人員体制 ●職員削減による弊害	・各種手当(雑給)が多いのではないか	・外部人材の有効活用 ・給与体系の見直し ・パート職員の削減・正規職員化(給与・待遇改善のため) ・業務の民間委託の廃止(個人情報の管理強化のため)

テーマ	良いと思う点（○）・良くないと思う点（●）	良いと思う／良くないと思う点として挙げた理由や背景と、それらに関連した意見など	必要だと思う取り組み
広報・情報公開	○情報提供に積極的 ○広報紙(月に2回)が充実している ○広報・ホームページが充実している ●問合せ窓口が不明 ○総合相談窓口ができた	・内容が面白いコンテンツが多い ・他市と同じ内容が多く、長岡京市に特徴があるものがない ・広報紙の印刷にかなりの予算を使っているため、カラー印刷でなく、白黒印刷でもよい ・市政にとってマイナス情報も包み隠さず公開することで、市政に対する信頼性が高まる ・広報紙には色々な情報が掲載されているが、どこに問い合わせを行えばよいかわからない ・行政からの情報発信が中心で、市民目線になっていない ・市民アンケートの結果の公表に一部偏りがある部分がある	・市職員の出前講座 ・市の方向性や意見の市民へのアピール ・情報発信の効率化(広報紙の集約など) ・月 1 回の頻度でもよいので、ほしい情報が手に入る、コンパクトな広報紙が必要 ・広報紙に市民が参加する仕組みが必要 ・マイナス情報の積極的公開 ・財政状況の情報提供 ・納税通知書に市の取り組みを掲載 ・誤解を招かないような市民アンケート結果の公表方法の工夫
コミュニティ活動	●地域活動のマンネリ化 ●市民活動サポートセンターの認知度が低い ○ ガラシャ祭・竹あそびに市民が参加		・学校内の地域コミュニティ施設の併設 ・西山への取り組み
職員	○窓口の接客態度がよい(窓口対応は非正規職員が対応) ●窓口担当と後方の正規職員の連携不足 ●サービス業の意識が希薄	・定員管理が行われ、専門的知識を持った職員は奥に移動した結果、派遣やパートの人が窓口対応をするようになった ・専門知識を持つ職員が減少している	・必要な部署には重点的に職員配置を行う ・職員のレベルを向上させることが必要 ・人事ローテーションを工夫することにより、専門的知識を持った職員の育成を行う必要がある
議員	●議員の提案が少ない ●選挙運動の方法に課題がある	・議会の活性化が必要であり、そのためには情報公開、市民参画を進める必要がある	・議員定数のカット ・条例を制定し、議会のリアルタイム中継、閉会後の市民への報告会を実施

【今後重要となる取り組みとして挙げたもの】

◎市民が参加できる環境整備を行うこと

- ー市民参加には、(退職した市民だけではなく)現役の市民が参加できるようにする工夫が求められる。
- ー様々な参加の機会は設けられているが、市民目線で本当に参加できる環境がきちんと整えていくことが必要。
- ー緑のサポーター制度など、長岡京市には市民参加の成功例がある。しかし、まだ特定の分野に留まった取り組みで、幅広い分野に広げていく必要がある。

◎事業仕分けを含め各種事業の点検の仕組みをうまく連携させて行うこと

- ー事業仕分けは、行政に関する市民の関心を高める良いイベントであり、職員が危機感をもって仕事をする契機になる。
- ー市民参加の機会を設けるとともに、仕分け結果の予算への反映が求められる。

◎効率的でマイナス情報も含む情報公開を行うこと

- ー長岡京市は情報公開に積極的で、様々な広報媒体があるが、多くの予算が使われており、効率化することが必要。
- ー情報提供の方法を市民の目線で行うとともに、市政に関するマイナス情報も提供する姿勢が必要。